

** 殺菌剤

石原トリフミン水和剤



殺菌剤分類

3

農林水産省登録

第16301号

有効成分

トリフルミゾール 30.0%

性状

類白色水和性粉末 45 μm以下

人畜毒性

普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）

有効年限

4年

包装

(100g×25袋) × 4函
(250g×15袋) × 4函
(500g×10袋) × 2函

特長

✓ 広範の病害にすぐれた効果

多くの病害に効果があり、防除の困難な病害の基幹防除剤として適しています。

✓ 予防・治療にすぐれた効果

すぐれた予防効果に加えて治療効果もありますので、病原菌が侵入した後の散布でも病斑の拡大や胞子形成を阻止します。

✓ 浸透性を有し、すぐれた耐雨性

浸透性がありますので耐雨性にすぐれ、降雨による効力低下の少ない薬剤です。

適用作物と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当たり使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トリフルミゾールを含む農薬の総使用回数
りんご	斑点落葉病 黒星病 うどんこ病 赤星病	2000~3000倍					
なし	黒星病 赤星病			収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	うどんこ病	2000倍					
かき		2000~3000倍	200~700ℓ		3回以内	散布	3回以内
	黒点病	2000倍					
ぶどう	うどんこ病	2000~3000倍		収穫7日前まで			
	黒とう病 褐斑病	2000倍					
もも	灰星病 黒星病	1000~1500倍		収穫前日まで	2回以内	灌注	7回以内 (散布は3回以内、灌注は4回以内)
	うどんこ病	1500~2000倍					
すもも	灰星病	1000倍					2回以内
おうとう		1000~1500倍		収穫14日前まで			
うめ	黒星病	2000倍			3回以内		3回以内
いちじく	株枯病	500倍	1~10ℓ/株		4回以内	灌注	7回以内 (散布は3回以内、灌注は4回以内)
	さび病 そうか病			収穫前日まで			
マルメロ	赤星病	2000倍	200~700ℓ	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
かりん				収穫前日まで			
あけび(果実)	うどんこ病			収穫3日前まで			
マンゴー				収穫7日前まで			
稻	ごま葉枯病 いもち病 ばか苗病	30倍	—	浸種前	1回	10分間 種子浸漬	1回
		300倍				24~48時間 種子浸漬	
		乾燥粒重量の0.5%				種子粉衣 (湿粉衣)	
		7.5~15倍	乾燥種粒1kg当たり30ml			種子吹き付け処理 (種子消毒機使用)	
麦類	斑葉病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病 網斑病	種子重量の0.5%	—	は種前		種子粉衣	3回以内 (種子粉衣は1回以内)
	うどんこ病 赤かび病	1000~2000倍	60~150ℓ	収穫14日前まで	3回以内	散布	
とうもろこし(子実)	すす紋病	2000~4000倍	100~300ℓ	収穫30日前まで		3回以内	
未成熟とうもろこし				収穫7日前まで			
かんしょ	基腐病	16倍	0.8~1.6ℓ	収穫前日まで	2回以内	無人航空機による散布	3回以内 (植付前の処理は1回以内、植付後は2回以内)
		2000~3000倍	100~300ℓ			散布	
	つる割病	500倍	—	植付前	1回	17時間苗基部浸漬	
		500倍	—	植付前	1回	17時間苗基部浸漬	
いちご	じやのめ病 輪斑病	3000倍					5回以内
	うどんこ病	3000~5000倍					
メロン	うどんこ病	3000~5000倍					
	陥没病 つる枯病	3000倍					
すいか	うどんこ病	3000~5000倍	100~300ℓ	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
	つる枯病	3000倍					

さやえんどう 実えんどう ピーマン	うどんこ病	3000~5000倍					
きゅうり	うどんこ病 黒星病						5回以内 (種子粉衣は1回以内)
かぼちゃ	うどんこ病 フザリウム立枯病	種子重量の0.3%	—	は種前	1回	種子粉衣 (湿粉衣)	5回以内 (種子粉衣は1回以内)
にがうり にんじん	うどんこ病	3000倍			3回以内		3回以内
うり類 (漬物用)	うどんこ病 つる枯病 炭疽病	3000~5000倍		収穫前日まで			
トマト ミニトマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病	3000倍	100~300ℓ		5回以内	散布	5回以内
なす	うどんこ病 すすかび病	3000~5000倍 3000倍		収穫開始10日前まで	3回以内		
しそ	さび病	5000倍					3回以内
ねぎ	萎凋病	50倍	—	定植直前		5~30分間 苗根部浸漬	
		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット 1冊(30×60cm、使用土壤約5ℓ)当たり0.5ℓ	定植前		苗床灌注	
		200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット 1冊(30×60cm、使用土壤約5ℓ)当たり1ℓ	定植前			
					1回	5分間 苗根部浸漬	1回
たまねぎ	乾腐病	50倍	—	定植直前			
		50~100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット 1冊(30×60cm、使用土壤約5ℓ)当たり0.5ℓ	定植前		苗床灌注	
		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット 1冊(30×60cm、使用土壤約5ℓ)当たり0.5~1ℓ	定植前			
オクラ	黒斑病 うどんこ病 葉すす病	5000倍	100~300ℓ	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
セリリー	斑点病	2000倍			2回以内		2回以内
こんにゃく	乾腐病	50倍	種いも1m³当たり 150ml	植付前	1回	種いもの芽基部 に散布	1回
らっきょう			—			5~30分間 種球浸漬	
アスパラガス	立枯病	1000倍	3ℓ / m³	収穫7日前まで		5分間 種球浸漬	
食用ゆり	鱗茎さび症	50倍	—	植付前		灌注	
とうがらし類	うどんこ病	4000~5000倍		収穫前日まで	5回以内	種球瞬間浸漬	5回以内
ごぼう		1000倍					

ふき		3000倍	100~300 ℥	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内			
ふき (ふきのとう)	うどんこ病 さび病	8000倍		収穫45日前まで						
パセリ	うどんこ病	1000倍		収穫30日前まで	1回		1回			
しょうが	白星病	2000倍		収穫前日まで	5回以内		5回以内			
葉しょうが				収穫7日前まで						
にら	さび病	1500~2000倍		収穫14日前まで	3回以内		3回以内			
にんにく	葉枯病			収穫前日まで						
茶	炭疽病	1000~1500倍	200~400 ℥	摘採14日前まで						
	もち病									
チューリップ	球根腐敗病	球根重量の0.2%		植付前	1回	球根粉衣	1回			
ばら	うどんこ病	3000~5000倍								
きく	白さび病	1000倍								
	うどんこ病	3000倍								
花き類・観葉植物 (ばら、きくを除く)	うどんこ病			発病初期	5回以内	散布	5回以内			
樹木類										
たばこ		5000倍	25~180 ℥	収穫10日前まで	2回以内		2回以内			

※本内容は2023年3月22日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項

- かきの黒点病に対しては、多発時には効果が劣る場合があるので注意してください。
- なしの品種「幸水」に使用する場合は、樹勢が弱いと高濃度で葉に軽度な黄斑を生じる場合があるので、所定範囲内の低濃度で使用してください。
- なしに使用する場合は、MEP剤との混用により薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- いちじくの株枯病に対して灌注処理する場合は、次のことに注意してください。
 - ・1ヶ月間隔で使用してください。
 - ・根域に対する処理量が著しく多いと、生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、根域に合わせて処理量や回数を調整してください。
- うり類の幼苗期には、濃緑化症状および生育抑制が生じることがあるので、使用しないでください。
- スイトピーに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、開花期以降は使用をさけてください。
- りんごに使用する場合、黒星病、赤星病およびうどんこ病の防除を主体とし、斑点落葉病に対しては落花後20日頃までの初期防除剤として使用してください。
- チューリップの球根粉衣に使用する場合は、適当な容器内で球根に本剤を均一に粉衣してから植付けてください。
- 水稲の種子消毒に使用する場合には、次の注意事項を守ってください。
 - ・種子消毒は浸種前に行ってください。
 - ・浸漬処理の場合、粉と処理薬液の容量比は1：1以上とし、種粉はサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
 - ・粉衣処理の場合は付着をよくするため、湿粉衣としてください。
 - ・吹き付け処理の場合は、種子消毒機を使用し、種粉に均一に付着させて乾燥してください。
 - ・処理した種粉は、風乾後、水洗いせずに浸種してください。
 - ・消毒後の浸種は水槽で行い、水の交換は原則として初めの2日間は行わず、その後換水する場合は静かに行ってください。
 - ・粉衣処理、高濃度浸漬処理（30倍）および吹き付け処理をした種子を播種する場合は、浸種終了後、浸種液中で過度の付着薬剤をゆすぎ落としてください。
 - ・軽度の初期生育遅延が認められる場合もありますが、その後回復するので通常の管理を維持してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、次の注意事項を守ってください。
 - ・散布は散布機種の散布基準に従って実施してください。
 - ・散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ・散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ・散布薬液の飛散によって自動車の塗装などに被害を与えるおそれがある等、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
 - ・散布終了後は機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。また、使用後の空の袋は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

安全使用上の注意事項



- 通常の使用方法では危険性は低いですが、誤飲、誤食などのないように注意してください。万一飲み込んだ場合は吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には、安静にして直ちに医師の手当を受けてください。
- 眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 皮膚に対して弱い刺激性があるので、皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落してください。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。また、薬剤を吸い込んだり浴びたりしないように注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体质の人は取扱いに十分注意してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中および使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかかるないようにしてください。

魚毒性等

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川・養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。

保管

密封し、直射日光を避け、食品と区別して冷涼・乾燥した所に保管してください。